



**活動報告** 地域おこし協力隊 吉田 絵美

## 地域を見直し 発信していこう

地域おこし協力隊として三好市に来て、あっという間に任期が終わろうとしています。2年半、三好市で生活していく中でたくさんの方にご協力を頂き、感謝をここで述べさせていただきますとともに、協力隊の事業を振り返りたいと思います。

**元呉服屋築150年弱の空き家をイベントスペースへ**

三好市に移り住んですぐに、池田町にあるうだつの町並みの古くて懐かしい雰囲気が入り、地域の方に現状を聞きに行きました。少子高齢化が進み、空き家や空き地が増加して

おり、何かこの地域でできないかと思いついたのが築150年弱の空き家でした。すぐにそこに住まいを移し、掃除や簡単な改修を行い、店舗だった部分を2011年11月に「スペースキセル」という名前で、地域住民が気軽に寄り合えるような場所としてオープンしました。

**「うだつマルシェ」の実施と人の輪の拡大**

地域住民の方たちが「スペースキセル」でたびたび集まるようになり、「うだつの町並みに多くの人に訪れてもらいたい」とさまざまな企画が生まれました。その中のひとつが「うだつマルシェ」です。

2011年11月から年に3〜4回、うだつの残る町並みの空き家や空き地を活用して、四国中の手作り雑貨の作家や農家、加工品の生産者が集まり一日マーケットを行います。懐かしい会場と、生産者と直接話ができるアットホームな雰囲気が好評を得て、現在では4000人を超えるお客さんが来るようになりました。

また、出店場所としてうだつの町並みの家の軒先や内部を貸し出しできないかを交渉して回りました。そこから、「本町通り」の空き家に少しずつ動きが出て

きました。

うだつの町並みにある「旧政海旅館」は、数年使われず空き家になっていましたが「うだつマルシェ」で2012年から使用させていただけるようになりました。そして、「旧政海旅館」が、徳島県が推進しているサテライトオフィス誘致事業の候補地となり、2013年3月から東京の「株式会社あしたのチーム」のサテライトオフィスが入居し、現地雇用のスタッフが5名常勤するようになりました。閉まっていた旅館に明かりが毎日灯るようになり、視察も全国から多数訪れています。

**NPO法人マチトソラの立ち上げと広域での連携**

このような動きを積み重ねてきた結果、2012年11月にNPO法人マチトソラが地域住民の手で立ち上がりました。三好市は、「マチ」と呼ばれる四国の交通の要所として栄えた中心市街地の阿波池田と、「ソラ」と呼ばれる祖谷や大歩危小歩危などの山間部があり、それぞれの地域で古来から続いていた暮らしや伝統を活用していくというのが設立趣旨となりま

す。山間部で農作業体験をする「伝える暮らしワークショップ」や、東祖谷の重要伝統的建造物群保存地区・落合集落とうだつの町並みをつないで、現代アートの展示を行う「マチトソラ芸術祭」など、さまざまな団体と協力し合い事業を実施していき

**今後の展望について**

協力隊としてこれまで行って来た事業は、地域にさまざまな人が行き交うことで、次の世代を担う若者たちが地域に魅力を感じ、交流を深め、新しい可能性を作っていくことを目的としています。今後もこの趣旨で活動を広げていこうと考えており、若い事業主が新しくチャレンジをする場として「スペースキセル」をカフェに改装して運営していく予定です。また夏頃には、「うだつマルシェ」で知り合った、作家や生産者の商品を中心とした四国の産品を販売する店舗を徳島市内にオープンする予定です。

地域には若者から見ると魅力的なものが実はたくさん眠っており、その魅力を掘り起こし見せ方を変えて発信していくことがこれからの過疎地域での新しい事業を起こしていく上でポイントになっていくのではないかと考えています。今後とも三好市の皆さまのご指導のほどよろしくお願いたします。

## 特集

# 三好市地域おこし協力隊 一期生が残したものの

三好市では平成23年7月より地域おこし協力隊を委嘱し、地域力の維持・強化を図ってまいりました。現在7名の地域おこし協力隊員を核として、地域資源を見直し、地域づくりを持続的に行なえる仕組み作りを目的に、隊員が地域住民と活動するモデルケースを作っていく取り組みを進めています。今年3月で3名の隊員が任期を満了します。そこで今月の市報では、一期生3年間の活動について、見えてきた課題、今後の地域づくりなどについて報告してもらいます。

**【地域おこし協力隊とは】** 人口減少や高齢化などの進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を図ることで、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とする取り組みです。



### 地域おこし協力隊 活動報告および計画発表会を開催します

発表会はどなたでも入場できます。事前申込は必要ありませんので、お気軽に会場までお越しください。

**【日時】**

3月20日(木)  
13時30分〜

**【場所】**

三好市役所第1会議室

**【内容】**

● 先進事例の紹介  
地域再生マネージャー

千田良仁氏

● 1期生活動報告

3年間の活動によってどの程度地域が活性化されたか確認するとともに、今後の持続可能な地域おこしの参考とします。

● 2期生計画発表

今年度から活動している2期生は、活動計画をブラッシュアップするための発表を行います。

**【お問い合わせ先】**

三好市役所 地域振興課  
電話 72・7649



2011年7月に赴任してから2年8か月。当初は右も左も何一つわからなかった私が、三好をはじめいろいろいる方々のおかげで少しだけ周りが見えてきたこの春、いよいよ卒業を迎えることとなりました。赴任中、お世話になりました皆さまには本当に感謝でいっぱいです。

**広がる耕作放棄地**  
**自分でできることは何なのか**

私は当初、鉄道会社で働いていた経験から地元鉄道会社から「今度、団体列車が走るんだけど添乗員をしてくれないか」と依頼を受け、「トロッコ列車」

協力隊として2年半、生まれ故郷で、自分が持ち帰ってきた特技を活用し、地域の方々へのささやかな恩返しができたのでは、ということが代え難い喜びとなり、活力となっています。

前職がテレビや映像の仕事であった私は、着任早々からさまざまな依頼を頂き、取り組みを進めてまいりましたが、その中で、三つの柱ができてきました。

**三つの柱の取り組み**

一つ目は、「今あるものを生かしたまちづくり」に向けて、地域に残る有形無形の文化財、伝承、戦争体験や生活の知恵といった地域の宝を、後世に伝えるための記録や、映像制作です。

着任当初、地域の宝としての文化財、旧政海旅館と司馬遼太郎や林芙美子、まちなみ保存の重要性・市民総ガイド構想などを紹介した講演活動から始めました。さらに、阿波池田たばこを語り継ぐ会や、たばこ産業の歴史をニューズ映像と共に綴った記録、戦争体験者の記録、児童生徒へ地域の長老からの知恵を伝える三世代交流の記録、伊勢節伝承者の記録など、誤解を恐れずに言えば、「今撮らなければ近い将来には消える可能性のあるもの」の撮影・編集など

**活動報告** 地域おこし協力隊 **下川 徹**

**本当の協力隊とは**

三つ目は、市内の団体、個人老若男女、内容を問わず、ご相談頂いた依頼に、自分ができることは可能な限り行うとした、映像・写真の撮影や付随する制作支援です。映画「祖谷物語」ロケ支援から始まり、各地の神事、各種講演会や講座、お稽古ことからオーディション、直近では「銀座よるず市」の支援など、これまですでに300件以上に及んでいます。

こうした取り組みの、どの場面においても、書ききれないほどの貴重な時間を過ごさせていただけでしたが、思い起こせば、本当の協力隊とは、突然やっ



て来た人間の取り組みに温かい協力をしていたいた方々そのものであり、地域を守ってきた方々ご自身であると実感しています。

**ふるさと三好市の発展に向け**

3年前、東日本大震災後の一週間、閉鎖され、帰宅難民であふれた渋谷駅を目の前に、崩れた機材を拾い集め、水や食べ物に不自由したあの時、最初に心配したのは故郷三好市でした。自治体の区分が変わったとはいえ、「地元が存在すること」、そのありがたさを、当時以上に心深く刻んでいます。

今、全国で「地域おこし」や「地域活性化」ということが声高に言われております。まさに、集落の存亡を賭けて行わなければならない時期にきていると痛感します。私もふるさと三好市の発展に向け、任期終了後も三好市に残り、仕事の傍ら、できることは何でもやっというつもりです。

結びに、関わっていただいたすべての皆さまへの感謝と、三好市に生まれてよかったという言葉をもって、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

や「カラオケ列車」で添乗業務補助をさせていただきました。その中で知り合った人たちの中から、「三好市には多くの作物の耕作放棄地が残されて、再利用することができれば」という声を聞きました。三好市に広がる耕作放棄地、自分でできることは何なのか、行動しながら考えていこうと決めました。

そして最初のきっかけが、三好市名産のお茶に携わることでした。2012年の春、山城町の山間部で3か月ほど茶の剪定から肥料散布、茶摘みを研修させていただき、お茶の生産と耕作放棄の現状を学ぶことができ

ました。また、10月には現場の方と一緒に、東京でお茶のPRと販売を行ない、全国に数あるお茶の中で三好市のお茶や他の産品をどう売っていけば良いのか、ということを考えさせていただく機会に恵まれました。

**ワークショップや出張販売をおこなって**

こうした経験から、別の同僚隊員が行っていたお茶のワークショップ（耕作放棄地を借りて地元の方たちと茶摘み・茶揉み体験をする）にガイドとして参加したことで、耕作放棄地を

活用する次のきっかけが幕を開けました。以後、お茶だけでなく梅や柚子といったワークショップを共催し、2012年11月に設立された地元NPO「マチトソラ」の理事に任命されると、NPOの事業として私が引き継ぐこととなりました。

担当してから、最初に集落支援員さんやNPOマチトソラの会員さんなどの有志の方々とともに、真夏の猛暑から真冬の雪の降る中、井川町井内の各所の耕作放棄地を借り、草刈りや木の剪定、肥料散布など管理に努めました。

そして、春は山菜、夏は梅秋はすだち、冬は柚子といったワークショップを行い、地元ガイドの方々と一緒に収穫をして、地元で伝わる伝統的な料理法の体験講座を実施いたしました。ワークショップには三好市内外から毎回20〜30人の方にお越しいただきました。

また昨年から、収穫したすだちや柚子を「無農薬エンブレム」と名付け、私の地元である静岡県御殿場市や東京都の青空市場で販売する試みも同時に始めました。

ワークショップや出張販売は、経費や利益といったハードルは想定していた以上に高い、ということを感じ活動しております。しかし、少しずつ

**活動報告** 地域おこし協力隊 **茂泉 賢弥**

**すべてのご縁に感謝します**

つりピーターの方々も増え、三好市の山々に育まれた自然の恵みに魅かれたのは、私だけではなかったということを確認いたしました。

**取り組みは始まったばかり**

赴任した当初は活動に対して案ずる声をよくいただきました。卒業にあたり、耕作放棄地の利活用に関心し今後も期待を寄せている、という声をいただくことができました。農地を貸していた地元の方々、管理作業に携わってくれたスタッフ、遠くから足を運んでくださったお客様、関わった方々すべてのおかげであり、とてもありがたいことだと思えます。

今後の耕作放棄地の利活用ですが、後任のスタッフが決まり、今年もワークショップや出張販売などを行う予定で、さらに充実した内容になると思えます。

協力隊員としては任期が終わりますが、まだまだ耕作放棄地はあり、取り組みは始まったばかりです。あと少し時間があればと思います。たとえ卒業しても陰ながら支え続けていこうと思っております。

ほかにご紹介しきれないほど、期間中さまざまな方のご縁がありました。本当にお世話になりました。

ワークショップや出張販売は、経費や利益といったハードルは想定していた以上に高い、ということを感じ活動しております。しかし、少しずつ